

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心身ともに元気になれる」という理念を掲げています。食事、睡眠、排泄、入浴、運動、心の健康にサポートしています。	ホームの理念を利用契約時に本人と家族に説明している。日常生活の中で利用者一人ひとりの意向に合わせ、「笑顔と元気で」暮らし続けられるようなケアを目指し取り組んでいる。理念にそぐわない行動が職員に見受けられた時にはリーダーを中心に話し合い、日頃のケアに活かしている。	来訪者にも職員の取り組み姿勢を理解していただけるように見やすい場所に理念または目標を掲げられることが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所への理解を深めて頂くため、行事の際は地域の方もご案内し、参加して頂いています。区の共同作業には必ず参加し、地域の方たちと交流させて頂いています。	区費を納め一斉清掃にも参加し、地域との繋がりが広がるように努めている。ホームの夏祭りや敬老会には区長、民生委員、近所の方も来訪したという。また、区長からの紹介で保育園との交流も来春から行う予定であり、音楽ボランティアとしてピアノの演奏の方もお願いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独では行っていません。安茂里地区介護事業所ネットワークに参加し、地域への支援の一助をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、未実施。第一回運営推進会議は、11月4日。	1回目の運営推進会議を実施したところであり、その中で、今後、2カ月に1回実施することが決められた。参加者は家族代表2名、利用者代表1名、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員で、初回ということもあり会議の趣旨説明等に時間を割き、熱心な話し合いが行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には行っていない。	介護認定の調査は家族同席の上で行い、家族の依頼を受け代行業務も実施している。市主催の認知症セミナーへも参加している。介護あんしん相談員の来所については開設したてでもありまだ行われていないが、今後、受け入れを検討していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	おおよそが正しく理解している。物、言葉、薬による拘束はないか、確認しながらケアを行っている。	法人の方針として身体拘束をしないケアが掲げられており、拘束をしない3原則を徹底している。玄関は利用者の様子を見ながら施錠することもあるが、外出傾向の強い利用者については散歩にお連れし満足していただけるように対応している。拘束についての研修会はホームの年間計画の中で実施する予定である。	

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	開所時に内部で勉強会を行った。今後も会議時に勉強会を行いたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が外部で学ぶ機会を持ってはいないが、以前、後見人制度を利用されていた入居様がおられ、ユニット会議を通じて、実際に学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせを行い、疑問・不安点はないか確認しながらサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回開催の運営推進会議で、意見・要望を伺う機会があります。第1回目は11月4日。面会時等に、意見・要望を伺い反映させています。	意見や要望を表出できる利用者はほぼ全員で、毎日の申し送りでその内容を周知している。また、一人ひとりの生活記録、またはお便りを家族の元へ送付し意思疎通を図っている。家族の来訪については多い方で2日に1回あり、全員の家族に月1回は来訪していただくようお願いしている。家族会を9月の敬老会時に開催し、運営推進会議にも家族会から2名の方が選ばれている。	積極的に全体行事に取り組まれているのでプライバシーに配慮しながらホーム便りを四季折々発行され、利用者の生き生きとした様子を家族などにお知らせしたら良いのではないだろうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議、代表者が参加する全体会議を毎月1回ずつ行い、その機会を設けています。議題は検討し反映されています。	全体会議を月1回実施しており施設長も必ず出席し、処遇等についても話として上げ、その他の事項についても職員間で活発な話し合いが出来ている。また、人事考課制度に沿い、職員毎に目標設定を前・後期それぞれに行い、それによって個人面談を年2回実施し意見・要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定シートを元に代表者と面談を行い、勤務評価、目標設定へと繋げ、やりがいが持てるよう援助している。労働条件通知書や給与通知書など書式で提示し、労働環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、地区事業所ネットワークの勉強会に参加している。自主的に市民公開講座(認知症)の受講。OJTも互いに行っている。		

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あかね会(安茂里地区介護事業所ネットワーク)に参加。同業者との交流を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定前に事前面接を行い、ご本人と直接お話をします。また、ご本人の関係者からも聞き取りをし、困っていること、不安なことを明確にした上で、安心できる環境、関係を作る努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問したり、ホームの見学をして頂き、その際、ご家族の困っていること、要望を聞き取らせていただいています。入居後もご本人の様子を、来所時などにお知らせし、関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人および家族との会話、ご本人の様子を確かめ、必要と思われるサービスの情報を伝えたりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に食事を作り、食べ、共に作業をして作品を作ったり、疑似家族として話をしたり、傾聴し、安心して暮らせる場になるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時の面会をお願いする一方、面会することでストレスを抱かれるご家族には、少なくとも一月に一回の面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はどこでもご自由にでき、自宅近隣の方がいらっしゃったり、選挙の投票に出かけられた方もいます。	ホームのある所の近隣地域に自宅のある利用者が多いこともあり、友人や知人の来訪が見受けられる。利用者の希望を聞いて来訪される知人もおり、ホームでは継続できるように支援している。理美容院については基本的にホーム内で済ませているが、希望があれば馴染みの所へ家族がお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間や職員との会話を大切にし、耳の聞こえの悪い方も孤立しないように職員が間に入り、会話できるようにしている。時々、食堂の席替えをして多くの方と関係を築けるようにしている。		

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時にはお見舞いに伺い、異なる施設に入られた時には面会に伺っている。退居後も必要とされれば、相談を受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のユニット会議時に全体で、思い、希望などの意見交換、情報共有を努めています。随時にも行っています。本人本位です。	一部の利用者を除いては殆どの方が意思表示出来る状況であるが、日々の表情や行動を見て個々の生活の流れを把握し思いや意向を汲み取るようにしている。職員1人で1~2名の利用者を担当しているが、全職員で情報を共有するようにしており本人本位のケアが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活記録の中から読み取ったり、生活する中でご本人から情報を得たり、ご家族から聞き取ったりして、その方の歴史を知ろうとしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、生活記録、送りのノートを確認するなどして、現状や変化の把握をしています。変化のある時、変化が予想される時は、特に注意します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で本人、家族から寄せられた意見を交えて、話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	ケアプランの見直しは家族も交えて3か月に1度実施している。モニタリングは見直しの時期に合わせて状態の変化に合わせて行い、介護計画の継続・変更に繋げている。1か月に3名平均見直しを行うことにより3か月で利用者全員分が完了できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に様子、行動など、気づいたことなども記入している。記録の読み返し、申し送りなどで情報共有、モニタリングし、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に必要な買い物が生じたときや、ご家族が付き添えない時の受診付き添いや送り迎えなど、また、当日申し出の外出、外泊なども柔軟に対応している。		

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、訪問歯科診療の仲介をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診希望は本人の安心の為に受診していただいています。受診時、必要な情報提供も行います。	利用開始時に本人と家族の希望を聞くようにしている。法人関連の2ヶ所のクリニックと連携・協力体制を取りながら適切な医療が受けられるようにしている。また、24時間対応の訪問看護ステーションとも連携が密にとれるようにしている。歯科についても協力歯科医の往診が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化に気づいた時は、職場内の看護師に相談し、必要時、主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急外来や入院時には、主治医の紹介状と共に介護情報を提供している。入院後は、病院の地域連携室と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	人生の終末期の方たちなので、入居時に看取りについて説明している。	重度化や看取りに対するホームとしての基本的な指針と看取り介護の支援内容が定められている。利用開始時に説明しその上で本人や家族の希望を聞き、意向に沿い最期まで生活していただけるように取り組んでいる。本年、開設早々4月に1人の利用者を看取り、職員全員で看取り介護について貴重な体験をしたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期手当は書面で各個に配布してあるが、訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時連絡網は用意し、避難経路は周知している。実際の訓練が未実施。地域の防災マップを用意できている。11月26日防災訓練(日中想定)予定。	11月下旬に日中想定で区長、消防署員、近隣の方の参加もお願いし防災避難訓練を予定している。防火管理者として元消防士の職員が在籍しているのでまず火を出さないよう日頃から細かいチェックを実施している。今後、夜間想定を含む防災訓練を年2回行う予定である。	

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを認識し、個々に性格も違い、精神状態の変動もあるため、誇りやプライバシーを損ねないように、その時にあった言葉かけをしたり、対応を変えたりしている。	呼び名は本人や家族の希望を聞き人生の先輩としての尊敬の念を込めて、苗字、名前にさん付けでお呼びしている。日々のケアの中でどのように接することが利用者一人ひとりにとって良いのかを考えつつ対応している。来年度からプライバシー保護の基本的な内部研修を実施する予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常本人が思いや希望を表出できるように雰囲気など配慮している。気持ちをくみ取りながら、自分の意思で決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を最優先している。食事時間に間に合わなくてもその方のペースを優先している。何をしたいか希望を聞き、それができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品類も持ち込んで頂き、洋服を選ぶのを手伝ったり、髭剃りなどの整容が怠らないようにしている。また、声掛けの工夫で本人がおしゃれになるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、ホーム独自のメニューで、一緒に食事の支度をし、味見や盛り付けなどして頂いている。食事時は同じテーブルにつき、会話しながら食事を楽しんでいる。食形態も食べやすいように工夫する方もいる。	お手伝いの出来る利用者はほぼ全員で出来ることをしていただいている。家族等からの野菜の差し入れも多く食事形態も様々であるが調理を利用者と共に行い、利用者と職員と一緒に楽しく食事をしている。行事の時には季節によって工夫をした食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスはメニュー作成時に考慮している。毎食の摂取量と飲水量のチェックをしている。体調の悪い方、むせのある方には状態に応じた形態やとろみなど、好き嫌いも考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いている。介助の必要な方は毎食介助しているが、昼食後は、全員の仕上げ磨きを行っている。		

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排尿パターンを知るために排尿チェック表を使用。毎日、陰部清拭を行い、失禁の様子を把握するとともに皮膚トラブルを予防している。定時の誘導をすることで失禁を減らす工夫をしている。	自立の方が半数ほどで、その他の方は一部介助である。また、殆どの方はリハビリパンツ使用で夜間ポータブルトイレ使用の方が若干名いる。排泄パターンの把握は排尿、排便、回数それぞれのチェック表で行っている。人前で失敗した時にはプライバシーに配慮しつつ居室やトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、繊維質の食品を多くとって頂くようメニューの考慮と共に声掛けをしている。毎日の体操や散歩など運動にお誘いし、排便チェック表を使用し、便秘症の方には主治医から緩下剤などを処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯については個々の希望に添えない状態です。いつもしていたように入浴していただいています。	基本的に週2回入浴している。全介助の方は若干名で、殆どの方が一部介助である。入浴を拒む方も数名いるが、どうしたら楽しく入浴していただけるかを職員同士で話し合い、誘い方を変えたり、季節によって入浴剤を変えたりと工夫を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時を目安としてそれぞれ自由に就寝していただいています。安眠できるように眠前には気持ちが落ち着くように希望に沿った配慮をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チャートに薬情をはさみ、薬名薬効がわかるようにしている。用法用量は理解している。与薬時の事故を防ぐため、声出し確認と飲み込むまでを確認し支援している。処方内容に変化のあったときは申し送りで、変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意だったことの情報をもとに、本人の希望も聞き、個々に楽しめるものを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく添えるようにしています。日々、戸外ですごす時間を作ることに努めています。善光寺御開帳、坂城のバラ園など遠出もされ、秋には戸隠に新そばを食べに行く計画です。	車イスの方と歩行器の利用者がそれぞれ四分の一ほどで、杖の方が若干名という歩行状況であるが、天気が良ければ近隣へ散歩に出掛け、年間外出計画としてお花見、紅葉狩り、外食等が企画され出掛けている。また、日々の中でドライブを兼ねて出掛けることも度々ある。ホーム玄関前にはテーブルとイスが用意され、希望があればいつでも外で寛げるようになっている。	

グループホームウエルフェアあもり・花の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、希望された時には可能な限り一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ご家族の許可があれば職員が番号を押しかけている。手紙はがきの返事も書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乾湿計を設置し、適宜空調管理している。トイレなど不快な臭いの立ちやすい所はこまめに掃除換気をしている。カーテンを使い光の調節をし、壁面には月ごとに掲示物を変え、季節感を感じて頂けるよう配慮している。	全体的に広々としたスペースがあり廊下も広く、ホール兼食堂もゆったりとした造りで、ベージュ色の壁にも温かさが感じられる。冷暖房はエアコンで行われ、浴室にも配備されている床暖房が共用部分全体の暖房効果を果たしている。壁には10月に行われた運動会の写真が数枚貼られ活動の様子を見て取ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、個人の気の向くまま、食席で話したり、ソファでボーっとしたりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスや備品、お気に入りの額や写真、ご自分で作られた作品、お気に入りの洋服など、本人や家族と相談して設置しています。	各居室の壁、天井、カーテンの色が全室異なり、一人ひとりを大切にというホームの想いが窺えた。各居室には利用者の思い思いの物が持ち込まれ、自分が作った作品や家族の写真などが飾られていた。また、9月に行われた敬老会の時にスタッフから各利用者にも送られたメッセージカードも見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間違えやすい居室などは名前や目印をつけわかりやすいようにし、立ち上がり、トイレ動作、更衣など日常のできることは見守っています。		